

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290700137		
法人名	㈱堀企画		
事業所名	グループホームクローバー		
所在地	青森県三沢市古間木二丁目181-13		
自己評価作成日	平成27年11月1日	評価結果市町村受理日	平成28年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成27年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な場所にあり、自然と緑に囲まれ、昼夜とも静かな環境で、ゆっくりと穏やかな暮らしを送れます。利用者様、ご家族、スタッフみんなの笑顔が絶えないグループホームを目指しております。普通の暮らしを応援するため、洗濯物を畳んでいただいたり、食器拭きやモップがけ等を毎日お願いしており、一人ひとりの状態に応じた支援を行っております。また、体験入居も受け付けています。地域の障害者就労施設や介護事業所とも交流を図っており、皆様方から信頼される事業所となれるよう、サービスの向上に努めて参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と散歩しながら出会った人と挨拶を交わす中で、気軽に地域の人達がお茶飲みに来てくれる「カフェ」のような役割を果たしたいという思いで、地域につながるホームを目指して支援に取り組んでいる。また、近くの障害者就労施設では利用者が作業体験をさせていただき、施設からは草取りのボランティアが訪問するという交流も持たれており、夏祭りには近隣住民からいただいた野菜で作ったカレーや豚汁を振る舞い、喜ばれている。ホームでは常勤の看護師を擁して、かかりつけ医との連携が迅速に図れる体制となっている他、利用者一人ひとりの個性が尊重され、居心地の良い暮らしが送れるように、職員は常に自分自身に問いかけながらケアサービスにあたるべきだという信念があり、ケア場面の見守りと適切な助言に活かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示し、家族にもわかりやすく、職員も日々確認しながら実践するよう努めている。	開設時に近隣住民を個別訪問して、ホーム開設の意義と役割を説明しており、地域につながるホームを目指し、独自の理念を掲げている。また、朝礼時に唱和する等して理念を共有し、町内の住民がぶらりと訪れてお茶飲みができるカフェの役割を果たしたいと、理念を反映させたサービス提供に意欲的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等の機会を多く持っており、途中、挨拶を交わし、顔馴染みの関係づくりに努めている。	町内会に加入し、回覧板を通じて夏祭りに参加を呼びかけ、近隣住民からいただいた野菜でカレーや豚汁を作って振る舞い、好評を得ている。また、民生委員を通じて近くの障害者就労施設との交流が始まり、利用者が施設の作業を体験させていただく一方、施設側からは草取りのボランティアとして協力していただく等、交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入している。運営推進会議には地域の民生委員の方に参加していただいている。また、ホームの祭りへの参加について、回覧板を活用して、呼びかけをさせていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、利用者、家族、民生委員、行政の方に参加いただき、運営の報告や意見交換を行い、サービスの向上に努めている。	利用者と家族の代表、町内会長、民生委員、市担当課職員等からなるメンバーの他、初回時には駐在所署員や消防屯所署員の参加も得て、それぞれの専門的なアドバイスをいただく貴重な機会となっている。また、民生委員からの紹介で、地域の障害者就労施設との交流が始まったり、町内会の回覧版を通じて夏祭りが浸透して好評を得たという実績もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	開設して間もないため、疑問点や確認事項等、情報提供を受けながら、アドバイスをいただいている。	市担当課職員が運営推進会議にメンバーとして参画しており、開設間もないホームに助言する役割を担っている。また、ホームのパンフレットを配布している他、利用者の利便性の向上等、必要に応じて行政との連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成している。また、見守りや対応で、拘束をしなくてもよい方法を、職員会議や申し送り時に検討し、実践している。	身体拘束に関するマニュアルを用意している他、職員会議で対象事例の話し合いを行い、職員は理解を深めている。玄関は施錠せず、地域住民との交流により、無断外出時の協力関係が徐々に整いつつある他、職員は見守りを徹底しながら散歩に付き添う等の支援を行っている。また、身体拘束を行わない姿勢を示しているが、万が一の場合に備え、説明同意書や経過観察記録の書式を揃え、体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成している。今後も外部の研修への参加や勉強会を行い、全職員が念頭に置いてケアを提供していく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用している方がいるので、各関係者と連絡を取り合いながら、対応に結び付けている。また、研修や勉強会を行い、今後も必要な利用者が、安心した生活ができる活用に向けて、支援をしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明を心がけ、利用者や家族に納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見・要望等については、会議録を施設内で回覧し、周知している。また、玄関には苦情受付箱を設置している。	苦情受付箱を設置し、重要事項説明書にホーム内外の苦情窓口を明記している他、家族の面会時には遠慮せずに意見を述べていただけるように、話しやすい雰囲気づくりを心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や日々の申し送りで、職員の意見や提案を確認するようにしているが、課題が多いように感じる。	毎月のスタッフ会議において、運営面や業務の改善に向けた意見や提案が出されている。また、職員から出された意見を共有し、ケア現場に反映させるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	労働時間の調整や、毎月希望休がとれるよう配慮している。労務士と相談しながら、職場環境条件の整備に努めている。また、職員の資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの力量に合った外部研修を計画し、スキルアップにつなげられる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設と夏祭りへの参加等で交流を図っている。また、就労支援事業者に施設内の草取りを行っていただき、相互により良い関係づくりをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後間もない時には、声がけや関わりを多くして、不安の無いような対応を心がけている。また、担当職員をつけることで、早めに気づき、早めの対応に結び付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人と家族に施設を見学していただき、家族が抱えている不安や要望に耳を傾け、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントや看護サマリー等により、本人の状態を把握し、本人に合った支援を見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、できる事を協力していただき、その方の力が発揮できるよう声がけをして、満足感・達成感を抱くような生活をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、面会時や電話連絡時に本人の様子を伝え、また、家族からの要望を聞き、本人の情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力をいただいて、自宅に帰ったり、外食、墓参り等に出かけている。知人・友人の面会時は、ゆっくり過ごしていただけるよう努めている。	利用者との会話や関わりから見えてくる真実を見抜き、その思いに寄り添うことを目指しており、利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの関係を継続できるよう支援に努めている。また、利用者が通い慣れた美容院に出かけたり、食材の買い出しに同乗してスーパーや道の駅に出かけている他、お祭り見物等にも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりに個性があり、利用者間の関係が難しい場面もあるが、お手伝い等で協調性を持っていただいたり、職員が間に入り、気軽に話ができる雰囲気づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方はまだいないが、入居時には、退去することになった際の受け入れ先確保等の相談や支援を行うことを説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いを伺い、意思の把握に努めている。発語困難な方は、素振りや表情等で把握するよう努めており、家族から情報を聞くようにしている。	利用者一人ひとりの個性が尊重され、自然体で心地よい暮らしが送れるようにという理念を実現するために、「これで良いのか」と職員自身が常に自分に問いかけながらケアサービスにあたるべきだという信念の下、常日頃から管理者や事務長が職員を見守り、助言をしながら、利用者一人ひとりのその時の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際は、事前に本人や家族から、これまでの日々の暮らし方やサービス状況等の聞き取りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や申し送りにて、利用者の状況等、情報を共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃のケアの中で職員が気づいた事を話し合い、介護計画を立てている。毎月のモニタリングを行い、期間満了の都度、見直しをしている。	かかりつけ医や看護師、家族から意見を聴取した上で、全職員による担当者会議の中で意見交換を行い、介護計画を作成している。また、掲げる目標はポイントを絞り、現実的なテーマを取り上げるように心がけており、毎月行う評価の結果は家族に発信している他、3ヶ月毎の見直しや、体調変化等に応じた随時の見直しもなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・介護記録に日々の様子や職員の対応を記録し、職員間で情報を共有しながら、ケアの実践や介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町内会長や民生委員に協力していただき、地区のボランティアの方に協力いただいたり、行楽に出かける等、楽しみを取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設近くの地元の方は地域資源を活用できるよう努めているが、遠方の方は地域資源から遠ざかっている人もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医は変更せず、今までの生活を継続できるようにしているが、グループホームの特性から、専門医への受診になることもある。	入居前の受診状況を把握し、かかりつけ医への受診が支援されており、常時、看護師を介して、医師との連携がスムーズに行える環境にある。また、専門医や歯科、眼科への受診も支援されている他、通院方法や受診結果の伝達方法は家族の納得を得ており、日常の様子や受診内容が共有されるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	9月から看護師が入職したことで、医療機関との連絡・調整がスムーズに行えるようになった。利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	少しでも早期に退院できるように、日頃から医療機関との信頼関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時点で、家族と終末期に対する考えを話し合っている。	入居時に「重度化対応・終末期ケアに関する指針」に基づく説明が行われ、入居時点での利用者・家族それぞれの意思確認のためのアンケートを実施している。利用者の状態変化に応じて、看護師を介して医師との連携を図りながら、ホームとしての判断の下、その都度、臨機応変に対応してゆくこととなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設初期の段階で、全職員が救命講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員が立ち会いの下、利用者と全職員で訓練を行っている。近隣の駐在所にも協力を得られるようお願いしている。万が一に備え、防災備蓄倉庫を準備している。	いざという時に適切な避難誘導が行えるよう、年2回の訓練に取り組み、夜間想定訓練も利用者と共に実施している。災害時に備え、駐在所との連携を図り、地域住民と日常的な関わりを持つ中で、相互の協力関係を育もうと努めている。また、避難路の確保や消火器等の定期点検、スプリンクラーの設置の他、水や食料を含む防災備蓄品を倉庫に用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちを尊重し、穏やかに生活できるよう、言葉かけや対応に注意している。	職員は利用者のプライバシーに配慮し、自分がされて嫌だと思ふ事はせず、相手を思いやる気持ちを持って接している。ホームでは、先輩職員の対応が後輩のお手本となって引き継がれ、管理者の目配りにより、全職員で意識しながら、利用者の思いや意思が大切にされるケアを目指して取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に、利用者が気兼ねなく話せる雰囲気づくりに努め、意思決定ができるようゆっくり傾聴し、意見を求めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性を尊重し、体調に合わせて、ゆとりを持った過ごし方ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人や職員による、髭剃り・整髪その他、定期的に訪問美容室の来所がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやカット等をできる範囲で手伝っていただいている。旬の食材を取入れ、利用者と職員と一緒に、楽しく食事をしている。	アンケートや日常の暮らしの中で、食事の好き嫌いや希望を把握しており、利用者はできる範囲で、野菜の皮むきや下ごしらえ、茶碗拭き等を、職員の支援を受けながら行っている。また、職員もテーブルに着いて同じ食事を摂っており、利用者の見守りをしながら会話を楽しみ、食後の感想は記録に残して、今後に活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を記録に残し、利用者一人ひとりの体調を把握した上で援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後の口腔ケアは個々の能力に合わせ、声がけ・見守り・介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記入することで、一人ひとりのパターンを把握している。トイレの声をかけを行い、失敗の回数を減らすように努めている。また、パットの種類や声がけの時間帯等、個々に合わせた対応をしている。	排泄チェック表により、個々の排泄リズムを把握した上で、その人に相応しい声がけや誘導、自立支援を行っている。事前誘導により、失敗が減った利用者について、暖かい時期は布下着に替え、冬はパット使用にする等、状態に合わせた自立支援に発展させ、成果を上げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤にできるだけ頼らないよう、食事の工夫、毎日の牛乳摂取、水分補給等で排便を促すよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日は決まっているが、本人の体調不良や入浴拒否があった場合は、曜日を変更している。入浴日以外は足浴を行っている。	週2回、午後からの入浴支援は、1対1のスキンシップを重視した貴重なコミュニケーションの場となっており、介護度によっては職員2人体制でも支援されている。夏場の入浴しない日は足浴をしたり、入浴の拒否には時間や日を替えて声がけし、誘導を試みている他、長湯にはさりげなく声がけや見守りをして、心地よい入浴支援になるように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムに合わせた休息や睡眠を取ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容を把握し、ファイルに保管している。また、用法・用量の変更があった場合は、情報を共有し、観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみを把握し、役割づくりや夕食時の晩酌等、今までの生活に近い支援を少しでもできるよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に合わせて、散歩や買い物、ドライブに出かけている。	日常的に近隣を散歩する機会を持ち、馴染みの人と挨拶を交わすことが利用者の楽しみとなっている他、近くの障害者就労施設を訪問し、作業体験も行っている。また、会話の中で行きたい場所を把握し、月1度の行事の中に取り入れており、手弁当を持ってお花見に出かけたり、お祭り見物をしている他、家族との受診時に買い物や食事等を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所内の鍵の金庫で保管している。そのお金で、理・美容の支払いや、利用者の欲しい物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい希望がある場合は、職員がダイヤルしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに季節を感じる創作物を飾ったり、行事写真を掲示している。気温・湿度を確認し、必要に応じて窓の開閉、エアコン・空気清浄機等を使用している。また、カーテンにより、採光の調整を行っている。	広い窓からの日射しで明るいホールには、大画面のテレビを囲み、座り心地の良いソファが設置されており、利用者が大勢集まっている。廊下には天窓があつて明るく、調理場からは、利用者が集うホールが見渡せるようになっている。季節柄、クリスマスツリーが飾られている他、ホールには加湿器や空気清浄機も置かれ、温・湿度計で管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者がリラックスできるよう、ソファを設置している。座席は職員が指定した場所ではなく、気の合う利用者が隣同士に座って、話ができる環境づくりを行っている。また、要望により、居室でも過ごせるように配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や寝具、家族の写真等を準備していただき、できるだけ居心地の良い空間となるよう努めている。	居室には、使い慣れた椅子や布団類を持ち込んで使ったり、家族の写真等を飾っている。また、愛用の品や馴染みの物を持ってきていただくよう、家族に説明をして働きかけを行っており、居心地良い居室となるよう、更に支援を続けていく意向である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースには手すりを設置しており、施設内を安全に移動できるようにしている。部屋がわからなくなる方には、居室入口に名前を掲示したり、トイレの標示をしている。		